

県産廃処分場建設計画の撤回を求めるアピール

- 1 昨年 5 月 26 日、茨城県は「日立市諏訪町の日立セメント(株)太平田鉦山跡地を、産業廃棄物最終処分場建設の候補地とする」と突然発表しました。
これは 2005 年に操業を開始したエコフロンティアかさま（笠間市）が 2025 年頃には満杯になると見込まれるため、その後継施設として指定されたものです。
- 2 計画発表直後から、日立市民の中には大きな戸惑いが広がりました。
諏訪町周辺は、諏訪梅林や鮎川など豊かな自然に恵まれ、市民の憩いの場となっており、また水源地として河原子海岸に至る水系を形成しています。
常陸太田市に通じる県道 37 号は山間を縫うように走る狭い道であり、到底産業廃棄物を積載したダンプカーの往来には適しません。
建設予定地近くには保育園や学校も存在します。そのような場所が産廃処分場に相応しいとは到底考え難かったからです。
- 3 茨城県は、昨年 7～8 月、予定地周辺の 4 学区を中心に住民説明会を開催しましたが、折からのコロナ感染防止を理由に入場人員を制限し、学区外からの傍聴者を排除するなど、市民への情報提供は限定されたものでした。それでも、道路に対する危惧が表明されたことから、県は新たな搬入路建設を約束せざるを得なくなっています。
- 4 日立市民は、2020 年 8 月、「日立市に産廃処分場をつくらせない連絡会」を立ち上げ、計画撤回を求める署名活動に取り組みました。署名数は、本年 5 月末時点で 15,550 筆、人口の 1 割近くに達しています。また、太平田鉦山跡地は平坦なエコフロンティアかさまと異なり、周囲を山に囲まれたすり鉢状の地形であることから、処分場を作れば山の保水力を損ない水害発生危険が高まるとの分析結果も公表されました。
- 5 日立市議会は今月 25 日にも県の計画受け入れを強行採決する可能性があります。
私たちは、日立市が市の自然を壊し市民を危険に曝し市民の声を無視した「受け入れ」の決定をしないよう、強く求めます。

2021 年 6 月 19 日

日立市に県産廃最終処分場をつくらせない市民シンポジウム